平成 26 年 10 月 24 日(金)発行

奈良県感染症情報

平成 26 年 第 42 週(10 月 13 日～ 10 月 19 日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
http://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報
- 保健研究センターだより　～今年のRSウイルスの遺伝子型について～

❖定点把握感染症報告状況(定点当たりの患者報告数の上位5疾患)❖

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	2.35	(1.50)	↗	↑	↗	↑
2	A群溶連菌咽頭炎	0.85	(0.44)	↗	↗	↑	↘
3	RS ウイルス感染症	0.79	(0.74)	→	→	↗	↓
4	手足口病	0.65	(0.29)	↑↑	↘	↑↑	→
4	突発性発しん	0.65	(0.32)	↗	↗	→	↓

発生状況：大流行　流行　やや流行　少し流行　散発　(疾患毎に、基準値を定めています。)
増減：過去５週間平均数と比べたときの変化　↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

❖県内概況❖

先週は、北部地域でノロウイルスによる感染性胃腸炎の集団発生がありました。ノロウイルス感染症は患者の嘔吐物や便に含まれるウイルスが何らかの形で体内に入ることで発症します。感染していても症状の少ない人や、症状が治まった人からも、便中にはウイルス排出が続きます。また、ノロウイルスは乾燥すると容易に空中に漂い、これが口に入って感染することもあります。便や嘔吐物を処理する人は、使い捨てのマスク・手袋を着用し、乾燥させないうちに封じ込めることが必要です。ノロウイルスにはアルコール消毒は効果が無く、次亜塩素酸を用いた消毒が効果的です。

RSウイルス感染症は先週から横ばいで推移しています。また、手足口病が桜井保健所管内において増加しており、患者は 1～2 歳の子どもが中心です。

人が多く集まる場所から帰った際には、きちんと手洗い・うがいをして家庭に感染症を持ち込まないように努めましょう。

✤小児科外来情報✤

北部地区(矢追医院)

外来患者数は、水痘とインフルエンザ予防接種で増えているが、感染症はまだ少ない。
一旦学級閉鎖もでたインフルエンザは、最近みあたらない。嘔吐と腹痛、下痢の感染性胃腸炎がそろそろでてきたようだ。RSウイルス感染症も地域によりでているが、それほど多くない模様である。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

外来数はそう多くない。
軽症の感冒が主。インフルエンザを疑う高熱例もなくまだ陽性例もない。
感染性胃腸炎が少し。嘔吐例、下痢のみの例などあるがノロ、ロタ陽性例はない。
一時 RS 例があったがその後増加ない。
A 群溶連菌感染症が少し増加。
登録疾患ではないが経過がやや重い EB ウイルス例があった。

南部地区(県立五條病院小児科)

遷延する呼吸器感染症が増加。インフルエンザや RS ウイルス陽性例はでていない。
軽症下痢の胃腸炎も増加してきているが、ノロウイルス様ではない。

❖定点把握感染症報告状況❖

平成 26 年 第 42 週 10 月 13 日 ～ 19 日

保健所別報告数	奈良県	北部		中部		南部	
		奈良市	郡山	桜井	葛城	内吉野	吉野
インフルエンザ定点数	*55*	*11*	*16*	*11*	*11*	*2*	*3*
インフルエンザ	1 (0.02)		1 (0.06)				
小児科定点数	*35*	*7*	*10*	*7*	*7*	*1*	*2*
RSウイルス感染症	27 (0.79)	5 (0.71)	6 (0.60)	6 (0.86)	10 (1.43)		
咽頭結膜熱	7 (0.21)	2 (0.29)	2 (0.20)	1 (0.14)	2 (0.29)		
A群溶連菌咽頭炎	29 (0.85)	13 (1.86)	8 (0.80)	7 (1.00)			1 (0.50)
感染性胃腸炎	80 (2.35)	18 (2.57)	24 (2.40)	11 (1.57)	24 (3.43)		3 (1.50)
水痘	7 (0.21)	3 (0.43)	1 (0.10)	3 (0.43)			
手足口病	22 (0.65)		1 (0.10)	20 (2.86)	1 (0.14)		
伝染性紅斑	2 (0.06)	1 (0.14)	1 (0.10)				
突発性発しん	22 (0.65)	16 (2.29)	1 (0.10)	5 (0.71)			
百日咳	1 0		1 0				
ヘルパンギーナ	3 (0.09)		3 (0.30)				
流行性耳下腺炎	6 (0.18)	3 (0.43)	3 (0.30)				
眼科定点数	*9*	*1*	*3*	*2*	*2*	*0*	*1*
急性出血性結膜炎						−	
流行性角結膜炎	5 (0.56)			3 (1.50)	2 (1.00)	−	
基幹定点数	*6*	*1*	*2*	*1*	*1*	*1*	*0*
細菌性髄膜炎							−
無菌性髄膜炎							−
マイコプラズマ肺炎							−
クラミジア肺炎							−
感染性胃腸炎 （ロタウイルス）							−

上段 ：報告数
（下段）：定点当たり報告数 報告数÷定点数

❖全数把握感染症報告状況❖ （ ）は保健所別内訳

1類感染症	
2類感染症	結核4件(奈良市2、内吉野2)
3類感染症	腸チフス1件（奈良市1）
4類感染症	
5類感染症	水痘（入院例）1件（葛城1） 後天性免疫不全症候群（桜井1）

❖第42週のトピックス❖

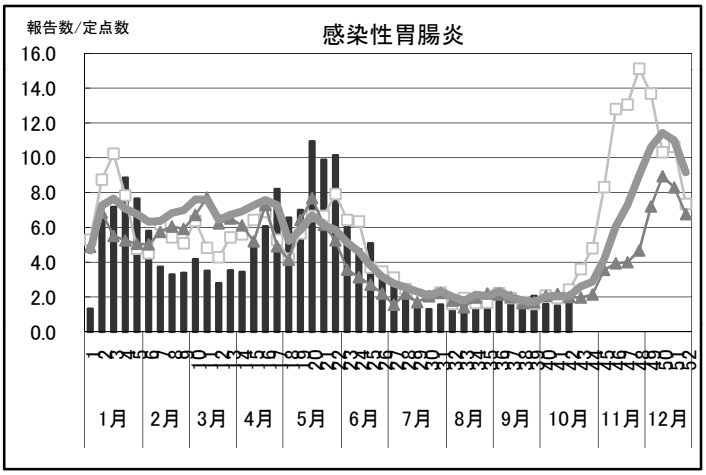
エボラ対応に関するロードマップ（厚生労働省検疫所
http://www.forth.go.jp/topics/2014/10201408.html

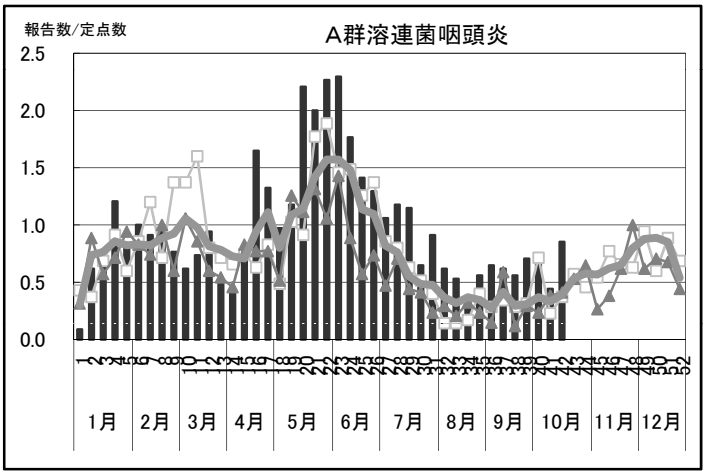
年齢別報告数

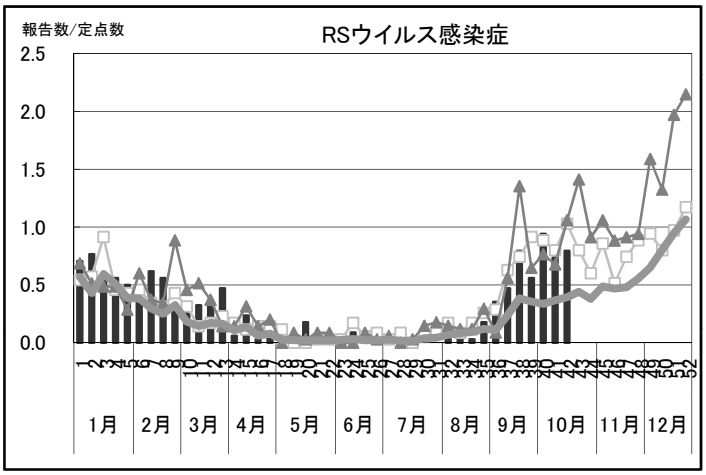
年齢区分	*年齢*	*0-5M*	*6-11M*	*1歳*	*2*	*3*	*4*	*5*	*6*	*7*	*8*	*9*	*10-14*	*15-19*	*20-29*	*30-39*	*40-49*	*50-59*	*60-69*	*70-79*	*80-*	*合計*	*累計*
インフルエンザ	男														1							1	5980
	女																						5988
年齢区分	*年齢*	*0-5M*	*6-11M*	*1歳*	*2*	*3*	*4*	*5*	*6*	*7*	*8*	*9*	*10-14*	*15-19*	*20-*							*合計*	*累計*
RSウイルス感染症	男	4	4	2																		10	223
	女	1	6	3	6		1															17	196
咽頭結膜熱	男			1		1																2	464
	女		1	1	1		1						1									5	381
A群溶連菌咽頭炎	男			1	1	1	4		4	2		1	2									16	730
	女			1	1		3	1	2		1	1	1		2							13	660
感染性胃腸炎	男		5	6	6	3	2	6	2	1	1		2	3	2							39	3156
	女		6	8	3	1	3	3	1	3	1		1	2	9							41	2892
水痘	男				3				1			1	1									6	557
	女						1															1	485
手足口病	男		1	5	3	3	1															13	113
	女		1	3	5																	9	83
伝染性紅斑	男					1		1														2	54
	女																						48
突発性発しん	男	1	8	2	1																	12	272
	女		6	4																		10	227
百日咳	男														1							1	1
	女																						1
ヘルパンギーナ	男	1				1																2	667
	女			1																		1	597
流行性耳下腺炎	男			1		1		1			1											4	92
	女			1	1																	2	83
年齢区分	*年齢*	*0-5M*	*6-11M*	*1歳*	*2*	*3*	*4*	*5*	*6*	*7*	*8*	*9*	*10-14*	*15-19*	*20-29*	*30-39*	*40-49*	*50-59*	*60-69*	*70-*		*合計*	*累計*
急性出血性結膜炎	男																						
	女																						
流行性角結膜炎	男					1																1	77
	女											1			1	1			1			4	105
年齢区分	*年齢*	*0歳*	*1-4*	*5-9*	*10-14*	*15-19*	*20-24*	*25-29*	*30-34*	*35-39*	*40-44*	*45-49*	*50-54*	*55-59*	*60-64*	*65-69*	*70-*					*合計*	*累計*
細菌性髄膜炎	男																						6
	女																						1
無菌性髄膜炎	男																						5
	女																						2
マイコプラズマ肺炎	男																						4
	女																						4
クラミジア肺炎	男																						
	女																						
感染性胃腸炎 （ロタウイルス）	男																						18
	女																						18

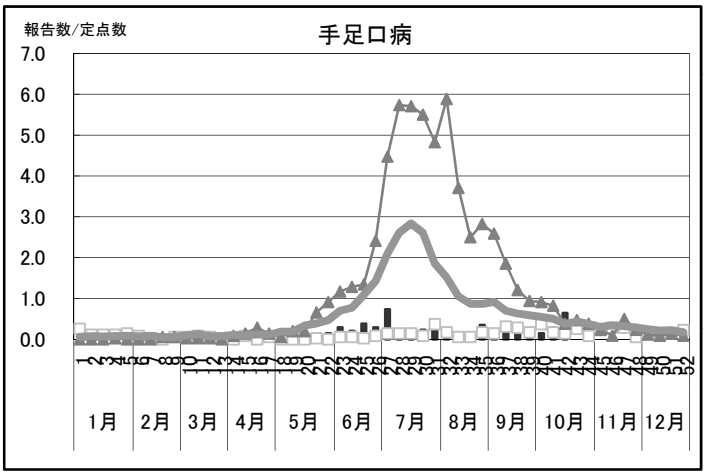
❖注目疾患の動向❖全て定点当たり報告数

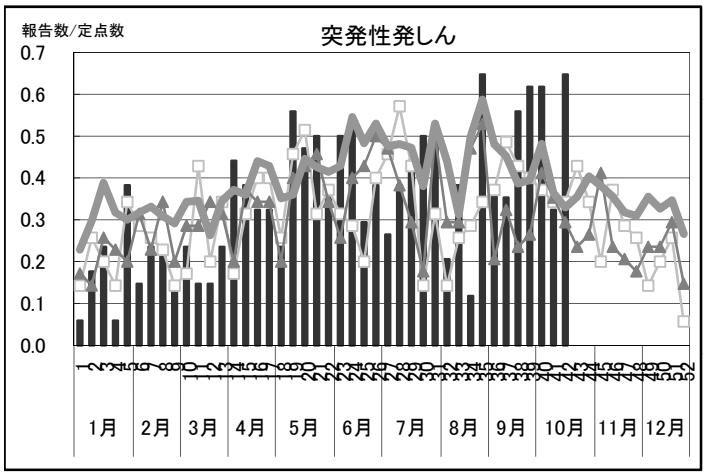
H26　H25　H24　過去10年平均

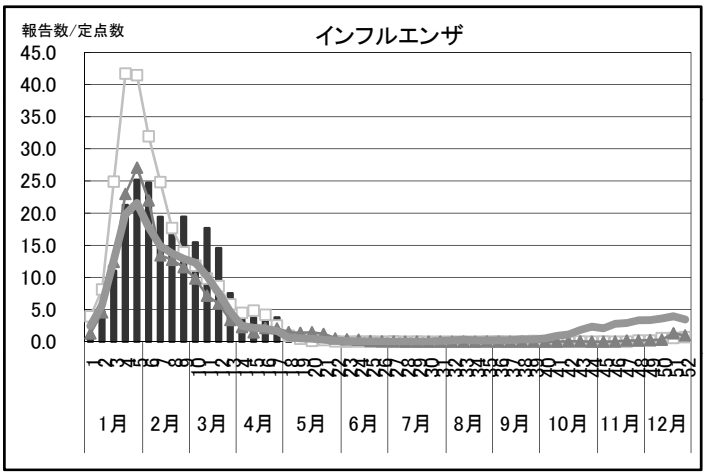


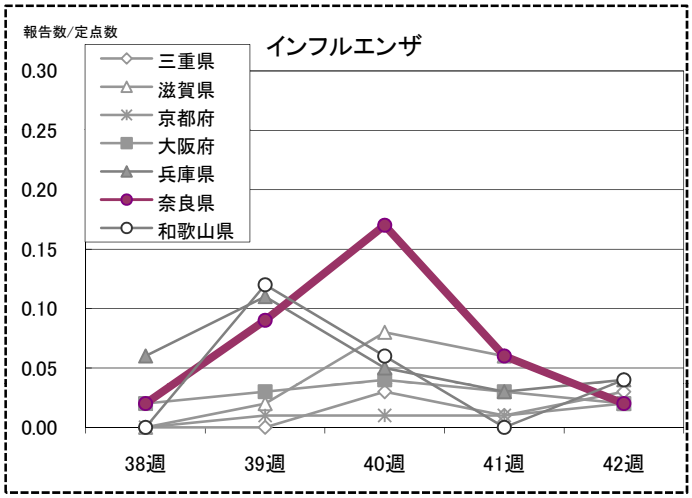


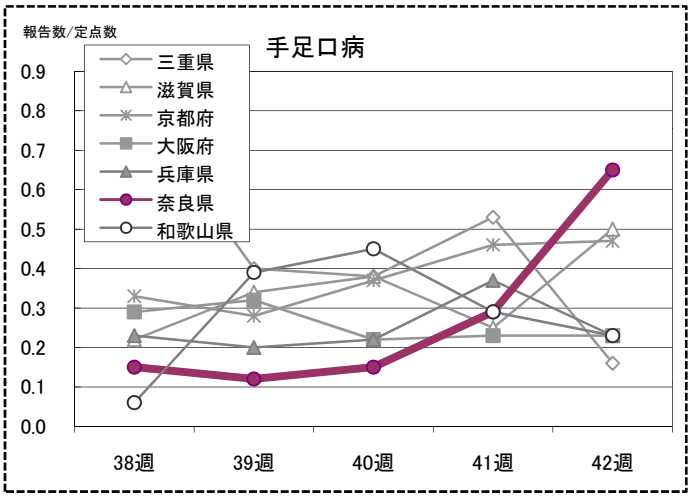












～今年の RS ウイルスの遺伝子型について～

＜RS ウイルスの季節です＞

RS ウイルスは、呼吸器系疾患を引き起こす代表的な原因ウイルスです。生後１歳までに 50%以上が、２歳までにほぼ 100%が初感染しますが、一度の感染では終生免疫は獲得できず、再感染を繰り返します。

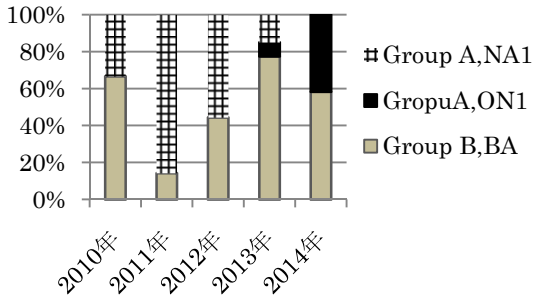
例年、奈良県では全国的な状況と同じく、季節性インフルエンザに先行して７月頃に流行が始まり９月頃に患者数が急増し、年末をピークに春まで続きます。

今年は夏からの流行はみられず比較的落ち着いていましたが、ここ数週間、定点当たり報告数が増えてきています。これから冬にかけてさらに患者が増加すると考えられるため、その動向に注目しています。

＜変異型の検出状況＞

RS ウイルスは血清型により A 型と B 型に分かれ、さらにウイルス表面の G 蛋白、F 蛋白により、多くの遺伝子型に分けられます[1)]。本県のこれまでの発生動向調査の結果、2012 年までは A 型は NA1、B 型は BA を検出し、毎年どちらの型も検出してきました。

2013 年には、本県ではこれまでみられなかった NA1 の変異型である ON1 を３株、初めて検出しました。ON1 は、遺伝子の塩基配列に反復配列が挿入された変異型です。今年はこれまでのところ、従来までの NA1 はみられず、この ON1 を検出しています（図１）。昨年の３株は、桜井保健所管内の同一の医療機関から採取された検体でしたが、今年に入ると桜井に加え内吉野、葛城保健所管内の検体からも検出しています。国内では神奈川県や新潟県[1)]、栃木県[2)]などですでに検出されていますが、近畿地方の状況は明らかではありません。



（図１）検出した RS ウイルスの年別遺伝子型解析結果

今年、本県で検出した ON1 の疫学情報は、０歳～７歳の男女５人で、診断名は気管支炎３、RS 疑い１、インフルエンザ１でした。臨床症状は 38.0℃～40.1℃の高熱と、上気道炎や気管支炎でした。

臨床症状に関して、従来の型と ON1 とで差異があるかどうかについては、ON1 の例数が少なく不明です。全国的にも、従来型と比べた臨床像への影響は十分分かっていませんが、ON1 を含む一部の遺伝子型では臨床的に重症化するともいわれているため[2)]、注目すべき点であると考えています。

本県では、９月以降に RS ウイルスを検出したのは１検体で、遺伝子型は B 型（BA）でした。今冬の ON1 の動向はまだ分かりませんが、検出数全体における A 型の割合が昨年と比べ増加していることも考えると、ON1 の検出が続くことも予想されます。そのため、遺伝子解析を継続して今後の動向に注意をはらう必要があると考えております。

定点医療機関の先生方には、引き続き検体採取にご協力をお願い致します。なお、迅速検査で RS 陽性のものでも、型識別に大変役立ちますので、よろしくお願いします。

参考文献

1)齋藤玲子、他:わが国の RSV の分子疫学、IASR Vol.35 No.6

2)Tsukagoshi H, *et al.*, Microbiol Immunol 57: 655-659, 2013

（ウイルス・疫学情報担当）